

# 授業科目 NO. 801 助産学概論

Introduction to Midwifery

授業の形態：講義

単位数（時間数）：1単位（15時間）

開講年次・学期：3年次・後期

必修・選択の別：選択・助産師選択コース必修

キーワード：助産師の定義、コアコンピテンシー、助産業務、歴史・文化、生命倫理、母子保健

## 1 金沢医科大学看護学部の到達目標（全科目共通です）

- ① 豊かな人間性と倫理観
- ② 看護学の知識と技術、及び実践力
- ③ 地域志向を視野に入れた専門性の獲得
- ④ 生涯学習能力
- ⑤ 国際的視野の獲得

## 2 学習目標

### 1) 一般目標（GIO）

助産ケアを行う際の基盤となる考え（助産師の定義・業務、助産の歴史・文化、倫理、助産師のコアコンピテンシー）及び国内外の母子保健の実情を理解し、専門職としての助産師の在り方と今後の展望について考察する。

### 2) 行動目標（SBO）※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学看護学部の到達目標との関連を示す。

- (1) 助産師の定義、コアコンピテンシーについて説明できる。(①②④)
- (2) 助産師の業務について説明できる。(②③⑤)
- (3) 助産の歴史及び母子に関わる多様な文化、慣習について説明できる。(②③⑤)
- (4) 助産倫理と生命倫理について理解し、現状と課題について考察し説明できる。(①②)
- (5) 疫学や保健統計から母子を取り巻く社会の動向と課題を理解し、専門職としての助産師の在り方と今後の展望について述べる事ができる。(①②③④⑤)

## 3 学習内容

授業の内容については、授業計画に示す。

## 4 評価

評価項目	評価割合
定期試験成績	90%
実習成績	%
レポート	10%
授業態度	%
小テスト	%
口頭試問	%
その他	%
合計	100%

## 5 教育担当者

科目責任者 : 神崎 光子

教授 神崎 光子 (母性看護学・助産学)

嘱託准教授 北濱 まさみ (母性看護学・助産学)

## 6 教育担当者の実務経験

本科目は、母性看護学及び助産学領域での実務経験のある教員が担当する。

## 7 教科書

- 1) 我部山キヨ子、安達 久美子 (編) : 基礎助産学[1] 助産学概論、医学書院
- 2) 厚生労働統計協会 (編集) : 国民衛生の動向、厚生労働統計協会
- 3) 落合慈之 (監修) : 婦人科・乳腺外科疾患ビジュアルブック、学研

## 8 推薦参考書

- 1) 工藤美子 (編) : 助産師基礎教育テキスト第 1 巻、助産概論、日本看護協会出版会
- 2) 吉沢豊予子 (編) : 助産師基礎教育テキスト第 2 巻、ウィメンズヘルスケア、日本看護協会出版会
- 3) 我部山キヨ子編 : 助産学講座 9、地域母子保健・国際母子保健、医学書院
- 4) 母子保健の主なる統計 母子保健事業団
- 5) 日本看護協会監修 : 新版 助産師業務要覧基礎編、日本看護協会出版会
- 6) 日本看護協会監修 : 新版 助産師業務要覧実践編、日本看護協会出版会

## 9 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- 1) 授業 1 コマにつき、事前学修・事後学修として計 180 分程度必要である。
- 2) 厚生労働省 子ども家庭局母子保健課、2022 年最近の母子保健を取り巻く状況 (<https://www.jfpa.or.jp/boshi.pdf>) にアクセスしてノートにまとめておくこと。
- 3) 助産関連領域の、最新の話題について常に情報収集しておくこと。

- 4) 生命倫理については、①吉武 久美子：産科医療と生命倫理—よりよい意思決定と紛争予防のために,昭和堂,2011、②シリーズ生命倫理学編集委員会：シリーズ生命倫理学 第7巻 周産期・新生児・小児医療,丸善出版,2014、③窪田 昭男他：周産期医療と生命倫理入門,メディカ出版,2014 等図書館所蔵の関連本を読む。また、生殖医療にまつわる倫理的な問題 ([https://www.med.or.jp/doctor-ase/vol16/16page\\_ID03main4.html](https://www.med.or.jp/doctor-ase/vol16/16page_ID03main4.html)) や中絶の倫理問題についての考察 (<http://www.rikkyo.ne.jp/grp/cchs/student/img/journal/2005/mugikura.pdf>) 等のトピックスを読み、現状と課題についての知見を深めておくこと。

## 10 課題（試験やレポート等）に関するフィードバック

レポートについては、提出後にコメントをしてフィードバックする。

## 11 履修上の注意事項

グループワーク・ディスカッションでは、積極的に発言し、メンバー間で協働すること。

## 12 オフィスアワー等

質問は、毎回授業中及び終了後に受け付ける。

メールアドレス：kanzaki@kanazawa-med.ac.jp、kitahama@kanazawa-med.ac.jp

第3学年

助産学概論

学期	回数	開講日	時限	区分	講義・実習内容	レポート/小テスト等	講座・科目群名	教員名
後	1	11月11日(月)	1	講義	助産師の定義、助産師のコアコンピテンシー		母性看護学・助産学	神崎教授
後	2	11月11日(月)	2	講義	助産師業務		母性看護学・助産学	神崎教授
後	3	11月18日(月)	1	講義	助産の歴史、女性や母子にかかわる文化・慣習		母性看護学・助産学	北濱准教授
後	4	11月18日(月)	2	講義	我が国の母子保健の変遷、母子保健行政・制度の概要		母性看護学・助産学	北濱准教授
後	5	12月23日(月)	1	講義	我が国の母子保健指標とその推移		母性看護学・助産学	神崎教授
後	6	12月23日(月)	2	講義	諸外国における母子保健の実情と助産師の活動		母性看護学・助産学	神崎教授
後	7	1月20日(月)	1	講義	生命倫理(出生前診断、グリーフケア等)の現状と助産倫理における課題		母性看護学・助産学	神崎教授
後	8(7.5)	1月20日(月)	2	講義	助産師としての在り方と今後の展望	レポート	母性看護学・助産学	神崎教授